

あいさつができる子どもたちを育て、 通学中の安全にも寄与する

あいさつ運動「みんなつながる、トモダチ作戦」というと、小中学校での活動だと思われるかもしれませんが、実は企業でも取り組まれている例は多いのです。

島根県と鳥取県で、「小さな親切」運動を統括している山陰本部（事務局：山陰合同銀行）では、今年そうした輪を広げていくために、会員企業296社に向けて、「あいさつ運動」への協力を呼びかけました。

山陰本部の中尾勝政さんはその狙いを次のように説明します。

「山陰本部は、昨年創立20年目を迎えたが、次の一步を踏み出す時に、もう一度基本に帰ってみようということですね。毎年、山陰合同銀行内では年に2回、春と秋に『あいさつ運動強化月間』を設定していましたが、今回は会員企業さんにも呼びかけてみました。反響はあったと思います」

それでは、2社の取り組みをご紹介します。

紹介します。

島根県 雲南建設 株式会社

子どもたちの声が
社員の
モチベーションに！

島根県雲南市を中心として、道路舗装や土木工事などを行っている雲南建設株式会社では、4月から「あいさつ運動」を取り入れています。

「雲南道路サービス㈱や常松土建㈱などを含む、グループ会社全体で活動しています。地域の子どもたちには、元気にあいさつができる子に

育ててほしいですからね」と語るのは、同グループ総務部長の秦智恵子さん。

山陰本部からの協力依頼を見て、



すぐにやってみよう決めました。参加人数や実施箇所が多いため、東京の中央本部に、追加ののぼりとたすきを依頼するほど力を入れてくださっています。実施の日は、社員が通学路に立って声をかけます。

「4月に2回、6月、7月にも1回行いましたが、子どもたちも慣れてきたのか、あいさつの声が少しずつ大きくなってきて嬉しく感じています」

す」。

実施にあたって、地域の小中学校に、あいさつ運動を始めたいと話に行ったところ、「防犯や交通安全にもつながるので、大変ありがたい」と喜んでいただきました。

おおきな声であいさつすることは、大人も子どもも気持ちがいいですね。同グループでは今後も継続していくと考えています。

島根県 カナツ技建工業 株式会社

たすきやのぼりが、
効果的！

島根県松江市にあるカナツ技建工業株式会社は、総合建設業として、県内を中心に土木や建築工事などを手掛けています。その経営方針の一つは、「社業を通じて社会に貢献する」。ですから、地域貢献には積極的で、地域の美化活動なども行ってきました。2015年には「県民いき

いき活動奨励賞」の企業部門を受賞しています。

今回の「あいさつ運動」について同社総務部の小森昭博さんに話を聞きました。

「田舎のせいか、ちょっと引つ込み思案の子が多いんですね。いや、むしろ大人の方でしょうか。大きな声であいさつというのがやや苦手です。で、この運動をしてみようと考えました。」

同社の前は交差点になっていて、近くの法吉ほっき小学校の通学路でもあります。あいさつ運動はそこから始められました。小森さんによると、「あいさつ運動」のたすきやのぼりが大



いに役にたったそうです。

「今、子どもたちが犠牲になる事件が多いでしょう。弊社は男性社員が多いので、怖がられたり、怪しまれたりする可能性もありますからね。それにたすきをつけることで、社員の気持ちがシフトできて、堂々と『おはよう』の声かけができます」

最初は警戒する子もいましたが、安心感がでくると、返ってくる声も徐々に大きくなっていました。

ここでは島根県の企業だけを、紹介しましたが、鳥取県でも「あいさ

つ運動」に多くの企業や団体が取り組んでくださいました。

今年、保護者会会長という立場の人物が、小学生を殺害するという痛ましい事件がありました。全国で、子どもたちの通学を見守ってくださっている地域の皆様にも衝撃でした。というし、活動がしにくくなったというケースがあるかもしれません。それでも、子どもたちを見守る活動は大切です。今回ご紹介したように、企業が「あいさつ運動」に取り組むことで、より多くの大人たちが子どもたちを見守る機会を設ける

ことが、事件の再発防止にもつながると「小さな親切」運動本部では考えています。

あいさつ運動
活動推進グッズ
無料提供中!



個人編

私も実践! あいさつ運動

東京都馬場喜久雄さん

(全国小学校道徳研究会 顧問/中央本部 紙芝居授業講師・作文コンクール審査員)

自宅前であいさつをしながら通学を見守り

「約 6年前、近隣の杉並区立馬橋まばし小学校の当時の校長先生から、『あいさつをしながら、児童の通学を見守ってほしい』という呼びかけに応じ、毎朝自宅前に立って“あいさつ運動”をしています。子どもたちとはすっかり顔なじみで、ハイタッチをして通り過ぎる子どももいます。近隣の方は、私のように自宅前に立っている方や、犬の散歩をしながら、ごみ出しの途中にと、様々な場所であいさつをしながら通学を見守っています。校門前では、児童と一緒にあいさつ運動を行う見守り隊の方もいらっしゃいますよ。」

私も子供のころから住んでいますが、このあたりは昔から自治会や同窓会などの組織がしっかりしているので、住民同士のつながりが深く、子どもを地域で見守り、育てていこうという意識が強いんです。」

馬橋小学校の現校長・松野泰一まつの やすかず先生によると、「子どもたちの方も、地域の大人に見守られているという安心感があり、大人の話を良く聞く子どもが多いんですよ」とおっしゃっていました。

都会は人間関係が希薄なのでは? と思われるがちですが、多くの住民がいるからこそ、子どもに目が届きやすい環境なのだと感じました。